

# ハーモニ

第31号

発行：下田市役所企画財政課 編集協力：男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会  
電話：22-2212 FAX：22-3910 E-MAIL：kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

## chapter 1 伊豆松崎 出会い村「蔵ら」視察しました！

6月10日に男女懇話会は下田市社会福祉協議会の地域福祉ネットワーク会議と合同で、松崎町にある伊豆松崎出会い村「蔵ら」を視察しました。今回はこの視察の内容についてご紹介します。



伊豆松崎出会い村「蔵ら」外観

### ◎事業所形態

- ・ワーカーズ・コレクティブ方式（労働者協同組合：共同出資して働き手を担い、利益があったものはみんなで分ける経営方式）
- ・女性25人（平均67歳）でシフトを組み運営し、お弁当の配達や小物づくりなど96人の高齢者が参加している。

### ◎事業目的

- ・「松崎町を元気にしたい」「高齢者の生きがいづくり（働き場づくり）をしたい」「高齢者の居場所づくりをしたい」の3つの理念を掲げている。

### ◎事業方針・方向・方法

- ・お客様に隅々まで満足していただきたいということを心がけている。また、4つの「チャ」＝「チャンス・チャレンジ・チェンジ・チャーミング」を大事にしている。
- ・成功したら続け、売れないものはやめる。
- ・町中で寄付等を頂いた地場産品を多く利用している（頂いた方に対しては食事券等で対応）。全国各地からの来客者も多く、全国的交流の産品利用も考えたい。
- ・町の活性化も考え各団体へ協力求め、ワンコインマップを作成。

### ◎伊豆松崎 出会い村「蔵ら」って？

建て売りする予定だった築150年の蔵造りの家を松崎町内の女性25人でワーカーズ・コレクティブを組織し、賛同者からの出資金により建物改修して借り、地元食材を使ったランチをはじめ、民芸品の販売、小物づくりの体験教室を開催。高齢者が働く場・憩いの場であるとともに収益事業も展開している居場所として注目されています。



#### 代表理事の青森千枝美さん

以前から個人で手芸品を展示・販売する小物の店「ゆめのはな」を経営。自身のこれまでの看護師、旅館業での経験を生かし、「蔵ら」立ち上げの際、中心的な役割を担い、現在も代表理事として運営に関わっています。



## ◎意見交換内容

### ○活動当初、ボランティアから始めた時点で、行政を頼ることはなかったのですか？

道具等はみんな持ち寄りで、収益も（ワーカーズ・コレクティブとして）純利益を分配することで始め、皆さん納得していただいている。また年金暮らしの方がほとんどで、給料としてこれ以上公金をもらうのも心苦しいという考えもあり、行政への協力は求めなかった。また、補助金を貰うとスピードが損なわれる可能性や補助等がなければ事業ができなくなるということ avoided かったというところもあった。自分達のできる範囲での活動を行い、今、経営も大きくなり、当初目標にしていた



意見交換の様子

分配時給500円（当初180円）程度の利益も上がるようになった。マスメディア等に取り上げられることにより、町の皆さんに内情を知っていただいたこと（苦しい経営状況）により、暖かい接し方をいただいている。また、5月に法人としたため、金融機関への信頼もいただいている。

### ○地域まちづくりに対して、女性の力の活かし方についてはどうお考えですか？

組合員には男性の方もいるし、ハード的な部分は男性の力がないとできないこともある。一方この仕事は、ソフト的な面では女性がいないとできないところもある。皆さん家庭を持っており家での作業もされているので、家族の理解は必要と考えている。その際、人として一歩下がっての対応は必要だと思う。

### ○ワンコインマップの勧誘への反応はどうでしたか？

皆さん進んで賛同していただいた。根底には、町が良くなれば、住民（生活）が良くなるという考えがあると思う。

### ○この事業を始めるにあたり、皆さんのやる気をどのようにしておこさせたのですか？

#### また、どうやって人を集めたのですか？

夢をもたせ、最初は良いことしか言わなかった。それを繰り返していたら、多くの人と一緒にやってきていた。集まってくれた皆さんの経歴も様々で、ボランティア活動や趣味を行なっている人が多数おり、そうした活動によるこの仕事だけではない「ゆとり」を持たれている。また各人の得意分野（料理の煮物・揚げ物等も含め）を活かした運営をしていて、その趣味で作られた物品販売も行っている。

### ○施設継続のための後継者づくりはどうお考えですか？

「蔵ら」という施設のみではなく、ワンコインマップ作成もそうだが、町全体として考えており後継者はたくさんいると思う。ただ、何を行うのにも家族の支えは必要だと感じている。

### ○運営の具体的なやり方は、またPRなどはどうしているのですか？問題点や課題はありますか？

働く者がみんな平等な立場として、定期的に会議を行い、例えばお客様に出すものを実際に試食し反省会を行う。お店のPRは特別していないが、来客された方がブログ等に掲載してくれる。そういった部分で、常に気持ちをこめた対応は欠かしてはいけない。課題については、法人化し経理ができる方が必要と感じている。税務関係の処理は難しいし、高齢者にはその対応が大変である。



大人気の500円ランチ



入口には「蔵ら」の大きな字



店内は多くの商品を販売



## ◎視察参加者の感想

高齢者の居場所づくり・生きがいづくりといっても、イメージがなかなかわきませんでした。 「蔵ら」の視察を通してひとつの具体的な姿を理解することができました。 聞けば、平均年齢67歳の方々96人が企業としての運営も含めてこの「蔵ら」に関わっているとのこと、店内で垣間見た、働いている方々の生き生きとした姿とその笑顔が、何よりも印象的でした。

「高齢者は、社会の中ですでにその役割を終えている。」—そんな自分勝手な思い込みは全く間違いで、趣味も含めて、これまで命をかけて身につけた多様なキャリアをこうした組織づくりのなかで生かし、まちおこしにまで結びつけている—とりわけ、リーダー青森さんの組織力に感動しました。 活力ある地域づくりは、女性と高齢者をいかに生かすか—と言っても言いすぎではないと感じました。

- 「人生、70歳からが本番！」 「蔵ら」紹介情報紙上の引き込まれるタイトル。代表理事青森さんの歩んできた人生そのものでしょう。この度、親しく身近にお話を伺って感じたことでした。
- まちおこし、高齢者の活動できる場所づくり、居場所づくりを理念に周到な準備と人材づくりのためのご努力があって、今日があることを実感しました。
- 青森さんがおっしゃっていた「目配り」「気配り」「心配り」と細やかな女性の感性の中から生みだされた地域の「蔵ら」、活力あふれる、身近な居場所でありますことを願っています。私も個人で数回伺っていますが（たったひとりの客に対しての）、スタッフの温かいアドバイスや案内をいただいています。感謝しています。たくさんの丹念に手作りされた作品に心動かされています。

## chapter 2 男女共同参画社会づくり宣言事業所訪問しました！

前号（第30号）で男女共同参画社会づくり宣言事業所について紹介させていただきましたが、今回新たに宣言をされました(株)クックランドさんへ男女懇話会メンバー等9名で訪問し、取材を行いました。取材当日は、遠藤一郎会長と鈴木雄一郎社長がお忙しい中、対応してくださいました。

### ◎宣言書内容について



#### 株式会社 クックランド 男女共同参画社会づくり宣言書

私たちは、男性も女性も個性と能力を十分に発揮し、いきいき活躍できるよう、次の取組を行うことを宣言します。

#### ◎取組内容

正社員、パートタイム労働者、男女別なく、働きやすく個性と能力を発揮できる環境整備と管理職への登用を継続的に行います。

平成25年2月1日

代表取締役 遠藤 一郎

### ◎具体的な取組について

- グループ全体で従業員100名程度、その内70%が女性でパートが主体。
- 女性リーダー育成にも力を入れており、女性管理職は3名。
- 子育て支援、育休支援を積極的に取り組んでいきたい。
- 総合点方式による個人評価を導入予定。評価100の内、経営側40、社員30、パート30で割り当て、社員が全ての人に細かい配慮ができるような職場環境にしたい。
- セクハラなどについては、「うばいあえば足ず、わけあえば余る」相田みつお氏の精神でお互いを尊重し合い、絆を深めている。



## ◎意見交換内容

### ◎女性の年齢層はどれくらいですか？

上は75歳から下は20歳前半。平均40歳後半。高齢者はじっくりと仕事を行い、他の若い人と比べても、出来る商品の品質は同じで無駄なところが無い。しかも、きれいであり逆に若い人はそういった部分を勉強している。

### ◎管理職が女性の場合、パート仲間同士、女性特有のもめ事など発生するのは…。

仮にそういった問題が発生した場合は、グループ同士での異動で対応している。逆に男性を加えて調整することもある。パートの人もそれぞれで、お金や待遇というより、人の繋がりなどを求めて働いている人もいる。

### ◎例えば女性のもつ良さによって生み出された商品などはありますか？

商品について明確なものはない。ただ、女性は根性があり、バランス感覚が優れていると思う。男性は瞬発力があるが持続力がない。また女性だから調理員というわけでなく、実際には男性の方が調理員は多い。将来的には、女性の団体の皆さんとの自主的な関係が築ければありがたい。商品開発をしていただき、うちは企業力でそれを販売につなげる。民宿などともそういう関係を築きたい。近年、小さな商店が少なくなっており、それぞれのお店が持つDNAがなくなるのが惜しい。そういったDNAを持っている人たちに対して、協力を投げかけ、ともに事業展開できればと考えている。また60歳～70歳の方が元気になってくれないと社会が成長しないと考えており、何か取り組めたら面白いと思っている。

### ◎子育て環境について、なかなか復帰できない状況が社会全体で広がっている。

#### そういった点でどのようなことを考えているか？

会社側が、女性が子育てする期間にスキルアップ支援などを行い、何かしら会社との接点を持つようなシステムを構築すべきだと思う。当社では1時間でも時間が空いていればぜひとも働いていただきたいという気持ちである。また、若い世代は朝は子育てで忙しく、雇用に年齢幅がないと会社がまわらないと考えている。

### ◎将来的に会社に託児等を考えているか。

銀水荘さんが行っているのを視察したことがある。将来的には1社ではなく、何社か協力して行えればと考えている。



対応していただいた遠藤会長(左)と鈴木社長(右)



※男女共同参画情報紙「ハーモニー」へのご意見、ご感想を募集しております。

下田市役所企画財政課企画調整係までご連絡ください。

電話:0558-22-2212 FAX:0558-22-3910 E-mail:kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp